



暑い夏は涼しい場所でのんびり小説を読むのがおすすめ。図書館など落ち着ける場所や、お気に入りの場所でのんびりと本を読む時間は格別です。この夏は、本を読んで世界を広げてみませんか？

【今月の展示コーナー】

1つ目のテーマは

「SDGsについて考えよう」です。

SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴールから構成され、地球上の誰一人取り残さないことを誓っています。日本としても積極的に取り組んでいます。



2つ目の展示コーナーは、「アートギャラリー」です。

子ども教育学部・短期大学部の学生が授業で制作したポスターやおもちゃなど、様々な作品を展示しています。

【今月の 先生おすすめ本】

「精神科とは無縁と思っていたあなたが困ったときに精神科を味方につけるための本」

著者 寺尾 岳

出版社 星和書店



急激な「コロナ」感染により、私たちの日常生活にも大きな変化に見舞われた。ステイホーム等の呼びかけは、「密室化」した家庭環境から「うつ」を呼び覚まし、テレワークは、そもそも働く場所ではない家庭に仕事を持ち込むことで新たなストレスが生まれた。そして移動の制限により、職場そのものが崩壊し仕事を奪われた低賃金労働者や不安定雇用労働者が貧困に陥り、急激な環境の変化は、人間の心に大きな負担をなした。

このように激変する社会環境は、人々の精神生活にも大きな影響を及ぼし、いわゆる「コロナうつ」と呼ばれるメンタルの崩壊も僅々の課題になってきている。

今回紹介する「精神科とは無縁と思っていたあなたが困ったときに精神科を味方につけるための本—こころの病への適切な対応がわかる14の短編小説集」は、ベテラン4名の精神科医が統合失調症、アルコール依存症、認知症などの発症から受診、治療、リハビリを経て社会復帰に至る経緯を短編小説にして、精神科受診へのハードルを下げる試みを展開する良書である。

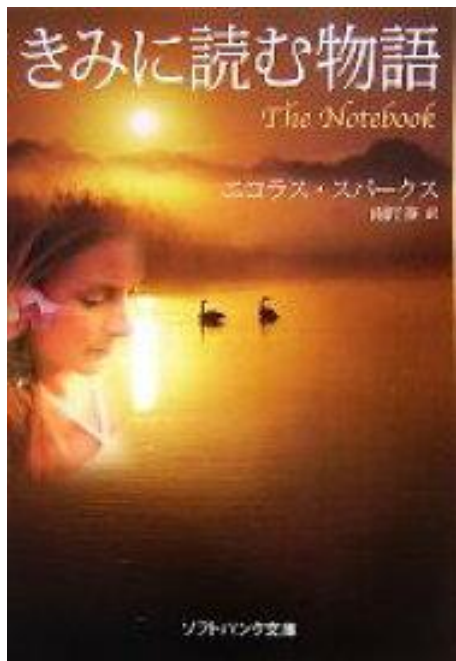
取り扱われている疾患はうつ病3例、双極性Ⅰ型障害2例、双極性Ⅱ型障害1例、統合失調症3例、強迫神経症2例、アルコール関連症例1例、レビー小体型認知症1例、認知症1例の14症例である。

こども教育学部 山路克文先生

「きみに読む物語」

著者 ニコラス・パークス

出版社 SBクリエイティブ



紹介する本は、ニコラス・スパークス著の恋愛小説で、2004年に映画化もされた作品です。物語は、高齢者施設に入居しているアルツハイマー症の女性患者に、居男性が、ある夏の10代の男女の恋の物語を読み聞かせるところから始まります。

この本に出合ったのは、海外留学中だった大学生の頃です。現地で友人と見に行ったこの映画にすっかりハマってしまい、すぐに原作を購入し読みました。それまでも同著者の小説を日本語では読んだことがあったのですが、初めて原著(英語)で読み、日本語訳の難しい英語表現などを知った1冊です。

映画や日本語版の小説でストーリーをある程度把握してから原著を読むと、辞書がなくても比較的簡単に読むことが出来ると思いますので、英語学習にもオススメです。

国際地域学部 小西琴絵先生

※図書館カレンダーは鈴鹿大学ホームページをご覧ください。

※図書館の一般の方向けの開放を8月1日より再開いたしました。引き続き「マスクの着用、入館時の手指の消毒、検温、記名、できるだけ短時間での滞在」にご協力くださいますようお願いいたします。